

福と無親

衆に福本作
四部一衆
に本四作

なりその歡喜あらはに寐寤を歡喜せしめ迷悟を歡喜せしむるに。おのおのと親切なりといへとも。おのおのと不染汗なり。かるかゆゑに轉次而受決なる。授記莊嚴事なり。
釋迦牟尼佛。因藥王菩薩。告入萬大士。藥王。汝見是大衆中。無量諸天。龍王。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人與非人。及比丘比丘尼。優婆塞。優婆夷。求聲聞者。求辟支佛者。求佛道者。如是等類。咸於佛前。聞妙法華經一偈一句。乃至一念隨喜者。我皆與授記。當得阿耨多羅三藐三菩提。しかあればすなはちいまの無量なる衆會あるひは天王龍王。四部八部。所求所解ことなりといへとも。たれか妙法にあらざらん。一句一偈をきかしめん。いかならん。なんちか乃至一念も。陀法を隨喜せしめん。如是等類といふは。これ法華類なり。咸於佛前といふは。咸於佛中なり。人與非人の萬像に錯認するありとも。百艸に下種せるありとも。如是等類なるへし。如是等類は。我皆與授記なり。我皆與授記の頭正尾正なる。すなはち當得阿耨多羅三藐三菩提なり。

同華下有

福の本有

り。
釋迦牟尼佛告藥王。又如來滅度之後。若有人聞妙法華經。乃至一偈一句。一念隨喜者。我亦與授阿耨多羅三藐三菩提記。いまいふ如來滅度之後は。いつれの時節到來なるへきぞ。四十九年なるか。八十年中なるか。しはらく八十年中なるへし。若有人聞妙法華經。乃至一偈一句。一念隨喜といふは。有智の所聞なるか。無智の所聞なるか。あやまりてきくか。あやまらずしてきくか。爲佗道せば。若有人。所聞なるへし。さらに有智無智等の諸類なりとすることなかれ。いふへし。聞法華は。たとひ甚淺無量なる。いく諸佛智慧なりとも。きくにはかならず。一句なり。きくにはかならず。一偈なり。きくにはかならず。一念隨喜なり。このとき我亦與授阿耨多羅三藐三菩提記なるへし。亦與授記あり。皆與授記あり。蹉過の張三に一任せしむることなかれ。審細の功夫に同參すへし。句偈隨喜を若有人聞なるへし。皮肉骨髓を頭上安頭するにいとまあらず。見授阿耨多羅三藐三菩提記は。我願既

下有本許
下有多次
下同
清本
上有華破
有字

彌勒
彌世
彌上
彌無
彌二

滿なり。如許皮袋なるへし。衆望亦足なり。如許若有人聞ならん。拈松枝の授記あり。拈優曇華の授記あり。拈瞬目の授記あり。拈破顔の授記あり。鞞鞋を轉授せし蹤跡あり。そこはくの是法非思量分別之所能解なるへし。我身是也の授記あり。汝身是也の授記あり。この道理よく過去現在未來を授記するなり。授記中の過去現在未來なるかゆゑに。自授記に現成し。佗授記に現成するなり。
維摩詰謂彌勒言。彌勒世尊授仁者記。一生當得阿耨多羅三藐三菩提。爲用何生得受記乎。過去耶。未來耶。現在耶。若過去生。過去生已滅。若未來生。未來生未至。若現在生。現在生無住。如佛所說。比丘。汝今即時亦生亦老亦滅。若以無生得受記者。無生即是正位。於正位中亦無受記。亦無得阿耨多羅三藐三菩提。云何彌勒受一生記乎。爲從如生得受記耶。爲從如滅得受記耶。若以如生得受記者。如無有生。若以如滅得受記者。如無有滅。一切衆生皆如也。一切法亦如也。衆聖賢亦如也。至於彌勒亦如也。若彌勒得受記者。一切衆生亦應受記。所以者何。夫如者。不二不異。若

彌勒得阿耨多羅三藐三菩提者。一切衆生皆亦應得。所以者何。一切衆生。即菩提相。維摩詰の道取するところ。如來これを不是といはず。しかあるに彌勒の得受記すてに決定せり。かるかゆゑに一切衆生の得受記おなしく決定すへし。衆生の受決あらずは。彌勒の受記あるへからず。すてに一切衆生。即菩提相なり。菩提の授記をうるなり。受記は今日の命なり。しかあれば一切衆生は。彌勒と同發心するゆゑに。同受記なり。同成道なるへし。たたし維摩道の於正位中亦無受記は。正位即授記をしらさるかことし。正位即菩提といはさるかことし。また過去生已滅。未來生未至。現在生無住とらいふ。過去かならずしも已滅にあらず。未來かならずしも未至にあらず。現在かならずしも無住にあらず。無住未至已滅等を過未現と學すといふとも。未至のすなはち過現未なる道理。かならず道取すへし。しかあれば生滅ともに得記する道理あるへし。生滅ともに得菩提の道理あるなり。一切衆生の授記をうるべき。彌勒も受記をうるなり。し

福本用上
字不有

はらくなんち維摩にとふ。彌勒は衆生と同なりや異なりや。試道看。すてに若彌勒得記せば。一切衆生も得記せんといふ。彌勒は衆生にあらずといはは。衆生は衆生にあらず。彌勒も彌勒にあらずさるへし。いかん。正當恁麼時。また維摩にあらずさるへし。維摩にあらずはこの道得用。不著ならん。しかあれはいふへし。授記の一切衆生をあらしむるとき。一切衆生およひ彌勒はあるなり。授記よく一切をあらしむへし。

正法眼藏授記

仁治三年壬寅夏四月廿五日記于觀音導利興聖塞林寺

寛元二年甲辰正月二十日書寫于越州吉峰寺侍者寮

正法眼藏觀音

也福本
取に作
る

雲巖無住大師問道吾山修一大師。大悲菩薩用許多手眼作麼。道吾云。如人夜間背手摸枕头。雲巖曰。我會也。我會也。道吾云。汝作麼。生會。雲巖曰。徧身是手眼。道吾云。道也太煞道。祇道得八九成。雲巖曰。某甲祇如此。師兄作麼。生。道吾云。通身是手眼。道得觀音は前後の聞聲。ままにおほしといへとも。雲巖道吾にしかす。觀音を參學せんとおもはは。雲巖道吾のいまの道也。を參究すへし。いま道取する大悲菩薩といふは。觀世音菩薩なり。觀自在菩薩ともいふ。諸佛の父母とも參學す。諸佛よりも未得道なりと學することなけれ。過去正法明如來なり。しかあるに雲巖道の大悲菩薩用許多手眼作麼の道を擧拈して參究すへきなり。觀音を保任せしむる家門あり。觀音を未夢見なる家門あり。雲巖に觀音あり。道吾と同參せり。たに一兩の觀音のみにあらず。百千の觀音おなしく。雲巖に同參す。觀音を眞箇に觀音ならしむるは。たた雲巖會のみなり。所以はいかん。雲巖道の觀音と餘佛道の

観音と道得道不得なり。餘佛道の観音は。たた十二面なり。雲巖しか
 あらず。餘佛道の観音は。わつかに千手眼なり。雲巖しかあらず。餘佛
 道の観音は。しはらく八萬四千手眼なり。雲巖しかあらず。なにをも
 てかしかありとしる。いはゆる雲巖道の大悲菩薩用許多手眼は。許
 多の道。たた八萬四千手眼のみにあらず。いはんや十二かよひ三十
 二三の數般のみならんや。許多はいくそはくといふなり。如許多の
 道なり。種般かきらす。種般すてにかきらすは。無邊際量にもかきる
 へからざるなり。用許多のかす。その宗旨かくのことく。參學すへし。
 すてに無量無邊の邊量を超越せるなり。いま雲巖道の許多手眼の
 道を拈來するに。道吾さらに道不著といはす。宗旨あるへし。雲巖道
 吾は。かつて樂山に同參の齊肩よりすてに四十年の同行として古
 今の因縁を商量するに。不是處は剗却し。是處は證明す。恁麼しきた
 れるに。今日は許多手眼と道取するに。雲巖道取し。道吾證明する。し
 るへし。兩位の古佛おなしく道取せる許多手眼なり。許多手眼は。あ

きらかに雲巖道吾同參なり。いまは用作麼を道吾に問取するなり。
 この問取を經師論師ならひに十聖三賢等の問取にひとしめさる
 へし。この問取は。道取を舉來せり。手眼を舉來せり。いま用許多手眼
 作麼と道取するに。この功業をちからとして成佛する古佛新佛あ
 るへし。使許多手眼作麼とも道取しつへし。作什麼とも道取し。動什
 麼とも道取し。道什麼とも道取ありぬへし。道吾いはく。如人夜間背
 手摸枕头。いはゆる宗旨は。たとへは人の夜間に手をうしろにして
 枕子を摸索するかことし。摸索するといふは。さくりもとむるなり。
 夜間は。くらき道得なり。なほ日裏看山と道取せんかことし。用手眼
 は。如人夜間背手摸枕头なり。これをもて用手眼を學すへし。夜間を
 日裏よりおもひやると夜間にして夜間なるときと。檢點すへし。す
 へて晝夜にあらざらんと。きと。檢點すへきなり。人の摸枕头せん。た
 とひこの儀すなはち。観音の用手眼のことくなる。會取せされとも。
 かれか。とく。なる道理のかれのかるへきにあらず。いまいふ。如人

一本の上
道に二い
字ま

著手福
本著取
に作る

の人。は。ひとへに譬諭の言なるへきか。またこの人は平常の人にして平常の人なるへからざるか。もし佛道の平常人なりと學して譬諭のみにあらずは。摸枕子に學すへきところあり。枕子も咨問すへき何形段あり。夜間も人天晝夜の夜間のみなるへからず。しるへし。いま道取するは取得枕子にあらず。牽挽枕子にあらず。推出枕子にあらず。夜間背手摸枕子と道取する道吾の道底を檢點せんとするに。眼の夜間をうる。みるへし。すこさされ。手のまくらをさくる。いまた劑限を著手せず。背手の機要なるへくは背眼すへき機要のあるか。夜間をあきらむへし。手眼世界なるへきか。人手眼のあるか。ひとり手眼のみ飛躍するか。頭正尾正なる手眼の一條兩條なるか。もしかくのことくの道理を檢點すれば。用許多手眼はたとひありとも。たれかこれ大悲菩薩。たた手眼菩薩のみきこゆるか。ことし。恁麼いはは。手眼菩薩用許多大悲菩薩作麼と問取しつへし。しるへし。手眼はたとひあひ罣礙せずとも。用作麼は恁麼用なり。用恁麼なり。恁

のは福
に本作

清本巖
下道字
無し

麼道得するか。ことしは。徧手眼は。不曾藏なりとも。徧手眼と道得する期をまつへからず。不曾藏の那手眼ありとも。這手眼ありとも。自己にはあらず。山海にはあらず。日月面にあらず。即心是佛にあらず。さるなり。雲巖道の我會也。我會也。は。道吾の道を我會するといふにあらず。用恁麼の手眼を道取に道得ならしむるには。我會也。我會也。なり。無端用這裏なるへし。無端須入今日なるへし。道吾道の徧作麼生會は。いはゆる我會也。たとひ我會也なるを罣礙するにあらず。されとも。道吾に徧作麼生會の道取あり。すてにこれ我會徧會なり。眼會手會なからんや。現成の會なるか。未現成の會なるか。我會也の會を我なりとすとも。徧作麼生會に徧あることを功夫ならしむへし。雲巖道の徧身是手眼の出現せるは。夜間背手摸枕子を講誦するに。徧身これ手眼なりと道取せると參學する觀音のみおほし。この觀音たとひ觀音なりとも。未道得なる觀音なり。雲巖道の徧身是手眼といふは。手眼是身徧といふにあらず。徧はたとひ徧界なりとも。身手

眼の正當恁麼は徧の所徧なるへからず。身手眼にたとひ徧の功德ありとも。機奪行市の手眼にあらざるへし。手眼の功德は。是と認する見取行取説取あらざるへし。手眼すてに許多といふ。千にあまゝり。萬にあまゝり。八萬四千にあまゝり。無量無邊にあまゝる。たは徧身是手眼のかくのことくあるのみにあらず。度生説法もかくのことくなるへし。國土放光もかくのことくなるへし。かるかゆ系に雲巖道は徧身是手眼なるへし。手眼を徧身ならしむるにはあらずと參學すへし。徧身是手眼を使用すといふとも。動容進止せしむといふとも。動著することなかれ。道吾道取す道也。太煞道。祇道得八九成。いはくの宗旨は。道得は太煞道なり。太煞道といふは。いひあていひあらはずのこれる未道得なしといふなり。いますてに未道得のつひに道不得なるへきのこりあらざるを道取するときは。祇道得八九成なり。いふ意旨の參學は。たとひ十成なりとも。道未盡なる力量にてあらは。參究にあらず。道得は八九成なりとも。道取すへきを八九成に道

るのと
に清
作本

取すると。十成に道取するとなるへし。當恁麼の時節に。百千萬の道得に道取すへきを。力量の妙なるかゆ系に。些子の力量を擧して。わつかに八九成に道得するなり。たとへは。盡十方界を百千萬力に拈來するあらんも。拈來せざるには。すくるへし。しかあるを。一力に拈來せんは。よのつねの力量なるへからず。いま八九成のころ。かくのことし。しかあるを。佛祖の祇道得八九成の道を。ききては。道得十成なるへきに。道得いたらすして。八九成といふと。會取す。佛法も。しかくのことくならは。今日にいたるへからず。いはゆるの八九成は。百千といはんか。ことし。許多といはんか。ことく。參學すへきなり。すてに八九成と道取す。ばかりしりぬ。八九にかきるへからずといふなり。佛祖の道話。かくのことく。參學するなり。雲巖道の某甲。祇如是。師兄作麼生は。道吾のいふ道得八九成の道を。道取せしむるかゆ系に。祇如是と。道取するなり。これ。不留朕跡なりといへとも。すなはち。臂長衫袖短なり。わか適來の道を。道未盡なからさし。おくを。某甲。祇

如是といふにはあらず。道吾いはく。通身是手眼。いはゆる道は手眼
 たかみに手眼として通身なりといふにあらず。手眼の通身を通身
 是手眼といふなり。しかあれは身はこれ手眼なりといふにはあ
 ず。用許多手眼は。用手用眼の許多なるには。手眼かならず。通身是手
 眼なるなり。用許多身心作麼と問取せんには。通身是作麼なる道得
 もあるへし。いはんや雲巖の徧と道吾の通と。道得盡。道未盡にはあ
 らざるなり。雲巖の徧と道吾の通と。比量の論にあらずといへとも。
 おのおの許多手眼は。恁麼の道取あるへし。しかあれは釋迦老子の
 道取する觀音は。わづかに千手眼なり。十二面なり。三十三身。八萬四
 千なり。雲巖道吾の觀音は。許多手眼なり。しかあれとも多少の道に
 はあらず。雲巖道吾の許多手眼の觀音を參學するとき。一切諸佛は。
 觀音の三昧を成八九成するなり。

正法眼藏觀音

爾時仁治三年壬寅四月二十六日示衆

本一作二

いま佛法西來よりこのかた佛祖おほく觀音を道取すといへとも。
 雲巖道吾におよはざるゆゑに。ひとりこの觀音を道取す。永嘉眞覺
 大師に。不見一法名如來。方得名爲觀自在の道あり。如來と觀音と。即
 現此身なりといへとも。佗身にはあらざる證明なり。麻谷臨濟に。正
 手眼の相見あり。許多の一。一なり。雲門に。見色明心。聞聲悟道の觀音
 あり。いつれの聲色か。見聞の觀世音菩薩にあらざらん。百丈に入理
 の門あり。楞嚴會に。圓通觀音あり。法華會に。普門示現觀音あり。みな
 與佛同參なり。與山河大地同參なりといへとも。なほこれ許多手眼
 の一二なるへし。

正法眼藏阿羅漢

諸漏已盡。無復煩惱。逮得已利。盡諸有結。心得自在。これ大阿羅漢なり。學佛者の極果なり。第四果となつく。佛阿羅漢なり。諸漏は没柄破木杓なり。用來すてに多時なりといふとも。已盡は木杓の渾身跳出なり。逮得已利は頂顛に出入するなり。盡諸有結は。盡十方界不曾藏なり。心得自在の形段。これを高處自高平。低處自低平と參究す。このゆゑに墻壁瓦礫あり。自在といふは。心也。全機現なり。無復煩惱は。未生煩惱なり。煩惱被煩惱礙をいふ。阿羅漢の神通智慧。禪定說法。化導放光等。さらに外道天魔等の論にひとしかるへからず。見百佛世界等の論。かならず凡夫の見解に準すへからず。將謂胡鬚赤。更有赤鬚胡の道理なり。入涅槃は。阿羅漢の入拳頭裏の行業なり。このゆゑに涅槃妙心なり。無迴避處なり。入鼻孔の阿羅漢を眞阿羅漢とす。いまた鼻孔に出入せざるは。阿羅漢にあらず。

古云。我等今日眞阿羅漢。以佛道聲令一切聞。いま令一切聞といふ

宗旨は。令一切諸法佛聲なり。あにたた諸佛及弟子のみを舉拈せんや。有識有知。有皮有肉。有骨有髓のやからみなきかしむるを。令一切といふ。有識有知といふは。國土艸木牆壁瓦礫なり。搖落盛衰。生死去來。みな聞著なり。以佛道聲令一切聞の由來は。渾界を耳根と參學するのみにあらず。

釋迦牟尼佛言。若我弟子。自謂阿羅漢。辟支佛者。不聞不知。諸佛如來。但教化菩薩事。此非佛弟子。非阿羅漢。非辟支佛。佛言の但教化菩薩事は。我及十方佛。乃能知是事なり。唯佛與佛。乃能究盡諸法實相なり。阿耨多羅三藐三菩提なり。しかあれば菩薩諸佛の自謂も。自謂阿羅漢。辟支佛者に一齊なるへし。そのゆゑはいかん。自謂すなはち聞知諸佛如來。但教化菩薩事なり。

古云。聲聞經中。稱阿羅漢。名爲佛地。いまの道著。これ佛道の證明なり。論師胸臆の說のみにあらず。佛道の通軌あり。阿羅漢を稱して佛地とする道理をも參學すへし。佛地を稱して阿羅漢とする道理を

清本
下す
の二
無し
字來

も參學すへきなり。阿羅漢果のほか。一塵一法の剩法あらず。いはんや三藐三菩提あらんや。阿耨多羅三藐三菩提のほか。さらば一塵一法の剩法あらず。いはんや四向四果あらんや。阿羅漢の擔來する諸法の正當恁麼時。この諸法。まことに八兩にあらず。半斤にあらず。不是心。不是佛。不是物なり。佛眼也。覩不見なり。八萬劫の前後を論すへからず。抉出眼睛の力量を參學すへし。剩法は渾法剩なり。釋迦牟尼佛言。是諸比丘比丘尼。自謂己得阿羅漢。是最後身究竟涅槃。便不復志求阿耨多羅三藐三菩提。當知此輩皆是增上慢人。所以者何。若有比丘實得阿羅漢。若不信此法。無有是處。いはゆる阿耨多羅三藐三菩提を能信するを。阿羅漢と證す。必信此法は。付屬此法なり。單傳此法なり。修證此法なり。實得阿羅漢は。是最後身究竟涅槃にあらず。阿耨多羅三藐三菩提を志求するかゆゑに。志求阿耨多羅三藐三菩提は。弄眼睛なり。壁面打坐なり。面壁閉眼なり。徧界なりといへとも。神出鬼没なり。互時なりといへとも。互換投機なり。かくのことく

鐫清
に本
る作

正清
に本
る作

福下
に本
同有
作耶
る也

なるを志求阿耨多羅三藐三菩提といふ。このゆゑに志求阿羅漢なり。志求阿羅漢は。粥足飯足なり。夾山圓悟禪師曰。古人得旨之後。向淡山茆茨石室。折脚錫子。煮飯喫十年二十年。大忘人世。永謝塵寰。今時不敢望如此。但只藉名晦迹。守本分。作箇骨律。雖老衲。以自契所證。隨己力量。受用消遣舊業。融通宿習。或有餘力。推以及人。結般若緣。練磨自己。脚跟純熟。譬如荒艸裏撥剔。一箇半箇。同知有共脫生死轉益。未來以報佛祖。淡恩抑不得。已霜露果熟。推將出世。應緣順適。開托人天。終不操心於有求。何況依倚貴勢。作流俗阿師。舉止欺凡。罔聖。苟利圖名。作無間業。縱無機緣。只恁度世。亦無業果。眞出塵羅漢耶。しかあれば。すなはち而今の本色の衲僧。これ眞出塵阿羅漢なり。阿羅漢の性相をしらん。ことはかくのことく。しるへし。西天の論師等のこと。はを妄計することなかれ。東地の圓悟禪師は。正傳の嫡嗣ある佛祖なり。洪州百丈山大智禪師云。眼耳鼻舌身意。各各不貪染。一切有無諸法。是

福本無
し上

名受持四句偈亦名四果。而今の自佗にかかはれざる眼耳鼻舌身意その頭正尾正はかりきはむへからず。このゆゑに渾身おのれつから不貪染なり。渾一切有無諸法に不貪染なり。受持四句偈おのれつからの渾渾を不貪染といふ。これをまた四果となつく。四果は阿羅漢なり。しかあれば而今現成の眼耳鼻舌身意すなはち阿羅漢なり。搆本宗末おのつから透脱なるへし。始到半關なるは受持四句偈なり。すなはち四果なり。透頂透底全體現成。さらに絲毫の遺漏あらざるなり。畢竟して道取せん作麼生道いはゆる羅漢在凡。諸法教佗聖礙羅漢在聖。諸法教佗解脱。須知羅漢與諸法同參也。既證阿羅漢。被阿羅漢礙也。所以空王已前老拳頭也。

正法眼藏阿羅漢

爾時仁治三年壬寅夏五月十五日住于雍州宇治郡觀音導利興聖
審林寺示衆

正法眼藏栢樹子

趙州眞際大師は釋迦如來より第三十七世なり。六十一歳にしてはしめて發心しいへをいてて學道す。このときちかひていはく。たとひ百歳なりとも。われよりもおとれらんは。われかれををしふへし。たとひ七歳なりとも。われよりもすくれは。われかれにとふへし。恁麼ちかひて南方え雲遊す。道をとふらひゆくちなみに。南泉にいたりて願和尚を禮拜す。ちなみに南泉もとより方丈内にありて臥せるついでに。師來參するに。すなはちとふ近離什麼處。師いはく。瑞像院。南泉いはく。還見瑞像麼。師いはく。瑞像即不見。即見臥如來。ときに南泉いましひ起してとふ。你はこれ有主沙彌なりや。無主沙彌なりや。師對していはく。有主沙彌。南泉いはく。那箇是你主。師いはく。孟春猶寒。伏惟和尚尊體起居萬福。南泉すなはち維那をよんていはく。此沙彌別處安排。かくのことくして南泉に寓直し。さらに餘方にゆかず。辨道功夫すること三十年なり。寸陰をむなしくせず。雜用あるこ

直一
止に
る本

となし。つひに傳道受業よりのち趙州の觀音院に住すること。また三十年なり。その住持の事形。つねの諸方にひとしからず。あるときいはく。煙火徒勞望。四鄰。饅頭。鑊子。前年別。今日思量空。嚙津。持念少。嗟歎頻。一百家中無善人。來者祇道覓茶喫。不得茶。噴去又嗔。あはれむへし。煙火まれなり。一味すくなし。雜味は前年よりあはず。一百家人きたれば茶をもとむ。茶をもとめざるはきたらず。將來茶人は。一百家人にあらざらん。これ見賢の雲水ありとも。思齊の龍象なからん。あるときまたいはく。思量天下出家人。似我住持能有幾。土榻牀破。蘆蓆。老榆木枕。全無被。尊像不燒。安息香。灰裏唯聞牛糞氣。これらの道得をもて。院門の潔白しりぬへし。いまこの蹤跡を學習すへし。僧衆おほからず。不滿二十衆といふは。よくすることのかたきによりてなり。僧堂おほきならず。前架後架なし。夜間は燈光あらず。冬天には炭火なし。あはれむへき。老後の生涯といひぬへし。古佛の操行それかくのことし。あるとき連牀のあしのをれたりけるに。燼木をなはにて

ゆひつけて。年月をふるに。知事つくりかへんと報するに。師ゆるささりけり。希代の勝躑なり。よのつねには。解齋粥米全無粒。空對閑窓。與隙塵なり。あるひはこのみをひろひて。僧衆もわかみも。茶飯の日用に活計す。いまの晩進。この操行を讚頌する。師の操行におよはざれとも。慕古を心術とするなり。あるとき衆にしめして。いはく。われ南方にありしこと三十年。ひとすちに坐禪す。なんたち諸人この一段の大事をえんとおもはは。究理坐禪してみるへし。三年五年二十年三十年せんに。道をえすといはは。老僧か頭をとりて杓につくりて小便をくむへし。かくのことくちかひける。まことに坐禪辨道は。佛道の直路なり。究理坐看すへし。のちに人いはく。趙州古佛なり。大師因有僧問。如何是祖師西來意。師云。庭前栢樹子。僧曰。和尚莫以境示人。師云。吾不以境示人。僧曰。如何是祖師西來意。師云。庭前栢樹子。この一則公案は。趙州より起首せりといへとも。必竟して諸佛の渾身に作家しきたれるところなり。たれかこれ主人公なり。いましるへ

有十なるあれ來祖樹福
り七り宗ら境意師上本
字の旨さにこ西に栢

き道理は庭前栢樹子これ境にあらさる宗旨なり。栢樹子これ自己
にあらさる宗旨なり。和尚莫以境示人なるかゆゑに。吾不以境示人
なるかゆゑに。いつれの和尚か和尚にさへられん。さへられすは吾
なるへし。いつれの吾か吾にさへられん。たとひさへらるとも人な
るへし。いつれの境か西來意に聖礙せられさらん。境はかならず西
來意なるへきかゆゑに。しかあれとも西來意の境をもちて相待せ
るにあらす。祖師西來意かならずしも正法眼藏涅槃妙心にあらさ
るなり。不是心なり。不是佛なり。不是物なり。いま如何是祖師西來意
と道取せるは問取のみにあらす。兩人同得見のみにあらさるなり。
正當恁麼問時は。一人也未可相見なり。自己也能得幾なり。さらに道
取するに渠無不是なり。このゆゑに錯錯なり。錯錯なるかゆゑに將
錯就錯なり。承虛接響にあらさらんや。豁達靈根無向背なるかゆゑ
に。庭前栢樹子なり。境にあらされは栢樹子にあるへからす。たとひ
境なりとも吾不以境示人なり。和尚莫以境示人なり。古祠にあらす。

作は作は一
る地りる本
に次にり

すてに古祠にあらされは埋没しもてゆくなり。すてに埋没しもて
ゆくことあれは還吾功夫來なり。還吾功夫來なるかゆゑに。吾不以
境示人なり。さらになにをもてか示人する。吾亦如是なるへし。
大師有僧問。栢樹還有佛性也無。大師云。有。僧曰。栢樹幾時成佛。大師云。
待虚空落地。僧曰。虚空幾時落地。大師云。待栢樹子成佛。いま大師の
道取を聴取し。這僧の問取をすてさるへし。大師道の虚空落地時。お
よひ栢樹成佛時は。互相の相待なる道得にあらさるなり。栢樹を問
取し。佛性を問取す。成佛を問取し。時節を問取す。虚空を問取し。落地
を問取するなり。いま大師の向僧道するに。有と道取するは。栢樹佛
性有なり。この道を通達して。佛祖の命脈を通暢すへきなり。いはゆ
る栢樹に佛性ありといふこと。尋常に道不得なり。未曾道なり。すて
に有佛性なり。その爲體あきらむへし。有佛性なり。栢樹いまその次
位の高低いかん。壽命身量の長短たつぬへし。種姓類族きくへし。さ
らに百千の栢樹みな同種姓なるか。別種胤なるか。成佛する栢樹あ

下有福
りは本
字空

り修行する栢樹あり。發心する栢樹あるへきか。栢樹は成佛あれとも修行發心等を具足せざるか。栢樹と虚空と。有甚麼因縁なるそ栢樹の成佛。さためて待你落地時なるは。栢樹の樹功。かならず虚空なるか。栢樹の地位は。虚空それ初地か。果位か。審細に功夫參究すへし。我還問汝趙州老。你亦一根枯栢樹なれば。恁麼の活計を消息せるか。おほよそ栢樹有佛性は。外道二乘等の境界にあらず。經師論師等の見聞にあらざるなり。いはんや枯木死灰の言華に開演せられんや。たた趙州の種類のみ參學參究するなり。いま趙州道の栢樹有佛性は。栢樹被栢樹礙也無なり。佛性被佛性礙也無なり。この道取。いまた一佛二佛の究盡するところにあらず。佛面あるもの。かならずしもこの道得を究盡することうへからず。たとひ諸佛のなかにも。道得する諸佛あるへし。道不得なる諸佛あるへし。いはゆる待虚空落地は。あるへからざることをいふにあらず。栢樹子の成佛する毎度に。虚空落地するなり。その落地響かくれざること。百千の雷よりもす

きたり。栢樹成佛の時は。しはらく十二時中なれとも。さらに十二時中なり。その落地の虚空は。凡聖所見の虚空のみにはあらず。このほかに一片の虚空あり。餘人所不見なり。趙州一箇見なり。虚空のおつるところの地。また凡聖所領の地にあらず。さらに一片の地あり。陰陽所不到なり。趙州一箇到なり。虚空落地の時節。たとひ日月山河なりとも待なるへし。たれか道取する佛性。かならず成佛すへしと。佛性は成佛以後の莊嚴なり。さらに成佛と同生同參する佛性もあるへし。しかあれはすなはち栢樹と佛性と異音同調にあらず。爲道すらくは何必なり。作廢生と參究すへし。

正法眼藏栢樹子

仁治三年壬寅五月菖節二十一日在雍州宇治郡觀音導利院示衆

正法眼藏光明

大宋國湖南長沙招賢大師。上堂。示衆云。盡十方界。是沙門眼。盡十方界。是沙門家常語。盡十方界。是沙門全身。盡十方界。在自已光明。盡十方界。在自已光明裏。盡十方界。無一人不是自己。佛道の參學。かならず勤學すへし。轉疎轉遠なるへからず。これによりて。光明を學得せる作家。まれなるものなり。震旦國。後漢の孝明皇帝。帝諱は莊なり。廟號は顯宗皇帝とまうす。光武皇帝の第四の御子なり。孝明皇帝の御宇。永平十年戊辰のとし。摩騰迦竺法蘭。はしめて。佛教を漢國に傳來す。焚經臺のまへに。道士の邪徒を降伏し。諸佛の神力をあらはす。それよりのち。梁武帝の御宇。普通年中にいたりて。初祖みつから。西天より南海の廣州に幸す。これ正法眼藏正傳の嫡嗣なり。釋迦牟尼佛より二十八世の法孫なり。ちなみに。嵩山の少室峰少林寺に掛錫します。まず。法を二祖大祖禪師に正傳せりし。これ佛祖光明の親曾なり。それより。さきは佛祖の光明を見聞せるなかりき。いはんや。自己の光

福本字
無上
帝字

明をしれるあらんや。たとひ。その光明は。頂額より。擔來して。相逢すといへとも。自己の眼睛に參學せず。このゆゑに。光明の長短方圓をあきらめず。光明の卷舒斂放をあきらめず。光明の相逢を厭却するゆゑに。光明と。光明と。轉疎轉遠なり。この疎遠。たとひ。光明なりとも。疎遠に。罣礙せらるるなり。轉疎轉遠の。臭皮袋。おもはくは。佛光も。自己光明も。赤白青黃にして。火光水光のことく。珠光玉光のことく。龍天の光のことく。日月の光のことくなるへし。と見解す。或從知識し。或從經卷すといへとも。光明の言教を。きくには。螢光のことくならん。とおもふ。さらに。眼睛頂額の參學にあらず。漢より。隋唐宋。およひ。而今に。いたるまで。かくのことく。の流類。おほきのみなり。文字の法師に。習學すること。なかれ。禪師胡亂の。説きくへからず。いはゆる。佛祖の光明は。盡十方界なり。盡佛盡祖なり。唯佛與佛なり。佛光なり。光佛なり。佛祖は。佛祖を。光明とせり。この光明を。修證して。作佛し。坐佛し。證佛す。このゆゑに。此光照東方。萬八千佛土の道著あり。これ。話頭

一本去
字無し

光なり。此光は佛光なり。照東方は東方照なり。東方は彼此の俗論にあらず。法界の中心なり。拳頭の中央なり。東方を聖礙すといへとも。光明の八兩なり。此土に東方あり。佗土に東方あり。東方に東方ある宗旨を參學すへし。萬八千といふは。萬は半拳頭なり。半即心なり。かならずしも十千にあらず。萬萬百萬等にあらず。佛土といふは。眼睛裏なり。照東方のことばを見聞して。一條白練去を東方えひきわたせらんか。ことくに。憶想參學するは。學道にあらず。盡十方界は。東方のみなり。東方を盡十方界といふ。このゆゑに盡十方界あるなり。盡十方界と開演する話頭。すなはち萬八千佛土の聞聲するなり。唐憲宗皇帝は。穆宗。宣宗。兩皇帝の帝父なり。敬宗。文宗。武宗。三皇帝の祖父なり。佛舍利を拜請して。入内供養のちなみに。夜放光明あり。皇帝大悦し。早朝の群臣。みな賀表をたてまつるに。いはく。陛下の聖德聖感なり。ときに一臣あり。韓愈文公なり。字は退之といふ。かつて佛祖の席末に參學しきたれり。文公ひとり賀表せず。憲宗皇帝宣問す。群臣

みな賀表をたてまつる。卿なんぞ賀表せざる。文公奏對す。微臣かつて佛書をみるに。いはく。佛光は青黃赤白にあらず。いまのはこれ龍神衛護の光明なり。皇帝宣問す。いかにあらんか。これ佛光なる。文公無對なり。いまこの文公。これ在家の士俗なり。といへとも。丈夫の志氣あり。回天轉地の才といひぬへし。かくのことく參學せん。學道の初心なり。不如是學は。非道なり。たとひ講經して天華をふらすとも。いまこの道理に。いたらすは。いたつらの功夫なり。たとひ十聖三賢なりとも。文公と同口の長舌を保任せんとき。發心なり。修證なり。しかありといへとも。韓文公なほ佛書を見聞せさるところあり。いはゆる佛光。非青黃赤白等の道。いかにあるへしとか學しきたれる。卿もし青黃赤白をみて。佛光にあらずと參學する。ちからあらは。さらんに佛光をみて。青黃赤白とすることなかれ。憲宗皇帝。もし佛祖ならんには。かくのことくの宣問ありぬへし。しかあれば。明明の光明は。百艸なり。百艸の光明。すてに根莖枝葉華果光色。いまた與奪あら

福に本長
上有り今
字下有し
沙道無

諸に福本
福に作
下本避
有餘字

す。五道の光明あり。六道の光明あり。這裏是什麼處在なればか。説光
説明する。云何。忽生山河大地なるへし。長沙道の盡十方界。是自己光
明の道取を。審細に參學すへきなり。光明自己盡十方界を參學すへ
きなり。生死去來は光明の去來なり。超凡越聖は光明の藍朱なり。作
佛作祖は光明の玄黄なり。修證はなきにあらず。光明の染汗なり。艸
木牆壁。皮肉骨髓。これ光明の赤白なり。煙霞水石。鳥道玄路。これ光明
の回環なり。自己の光明を見聞するは。值佛の證驗なり。見佛の證驗
なり。盡十方界は。是自己なり。是自己は。盡十方界なり。回避の餘地あ
るへからず。たとひ回避の地ありとも。これ出身の活路なり。而今の
觸體七尺。すなはち盡十方界の形なり。象なり。佛道に修證する。盡十
方界は。觸體形骸。皮肉骨髓なり。
雲門山大慈雲匡真大師は。如來世尊より。三十九世の兒孫なり。法を
雪峰眞覺大師に嗣す。佛衆の晩進なりといへとも。祖席の英雄なり。
たれか雲門山に光明佛の未曾出世と道取せん。あるとき上堂。示衆。

光明に福本
るに福本

下の諸本
有下二諸
明下無在
字光字人

云。人人盡有光明在。看時不見暗昏昏。作麼生是諸人光明在。衆無對。自
代云。僧堂佛殿。廚庫三門。いま大師道の人人盡有光明在は。のちに
出現すへしといはず。往世にありしといはず。傍觀の現成といはず。
人人自有光明在と道取するを。あきらかに聞持すへきなり。百千の
雲門をあつめて同參せしめ。一口同音に道取せしむるなり。人人盡
有光明在は。雲門の自構にあらず。人人の光明みつから拈光爲道な
り。人人盡有光明とは。渾人自是光明在なり。光明といふは。人人なり。
光明を拈得して。依報正報とせり。光明盡有。人人在なるべし。光明。自
是。人人在なり。人人自有。人人在なり。光光自有。光光在なり。有有盡有
有有在なり。盡盡有有。盡盡在なり。しかあれは。しるへし。人人盡有の
光明は。現成の人人なり。光光盡有の人人なり。しはらく雲門にとふ。
なんちなにをよんてか。人人とする。なにをよんてか。光明とする。雲
門みつからい。はく。作麼生是光明在。この問著は。疑殺話頭の光明な
り。しかあれとも。恁麼道著すれば。人人光光なり。ときに衆無對。たと

ひ百千の道得ありとも。無對を拈して道著するなり。これ佛祖正傳の。正法眼藏涅槃妙心なり。雲門自代云。僧堂佛殿廚庫三門。いま道取する自代は。雲門に自代するなり。大衆に自代するなり。光明に自代するなり。僧堂佛殿廚庫三門に自代するなり。しかあれとも雲門なにをよんてか。僧堂佛殿廚庫三門とする。大衆およひ人人をよんて。僧堂佛殿廚庫三門とすへからす。いくはくの僧堂佛殿廚庫三門かある。雲門なりとやせん。七佛なりとやせん。四七なりとやせん。二三なりとやせん。拳頭なりとやせん。鼻孔なりとやせん。いはくの僧堂佛殿廚庫三門。たとひいつれの佛祖なりとも。人人をまぬかれざるものなり。このゆゑに人人にあらず。しかありしよりこのかた。有佛殿の無佛なるあり。無佛殿の無佛なるあり。有光佛あり。無光佛あり。無佛光あり。有佛光あり。

雪峰山眞覺大師。示衆云。僧堂前與諸人相見了也。これすなはち雪峰の通身是眼睛のときなり。雪峰の雪峰を覷見する時節なり。僧堂の僧堂と相見するなり。保福舉問。鵝湖。僧堂前且置。什麼處望州亭。烏石嶺相見。鵝湖驟步歸方丈。保福便入僧堂。いま歸方丈入僧堂。これ話頭出身なり。相見底の道理なり。相見了也。僧堂なり。

正法眼藏光明

仁治三年壬寅夏六月二日夜三更四點。示衆于觀音導利興聖窰林寺。于時梅雨霖霖。簷頭滴滴。作麼生是光明。在大衆未免雲門道。覷破

正法眼藏身心學道

佛道は不道を擬するに不得なり。不學を擬するに轉遠なり。南嶽大
慧禪師のいはく。修證はなきにあらず。染汗することえじ。佛道を學
せされはすなはち外道闡提等の道に墮在す。このゆゑに前佛後佛
かならず佛道を修行するなり。佛道を學習するに。しはらくふたつ
あり。いはゆる心をもて學し。身をもて學するなり。心をもて學する
とは。あらゆる諸心をもて學するなり。その諸心といふは。質多心。汗
栗駄心。突栗駄心等なり。また感應道交して。菩提心をおこしてのち
佛祖の大道に歸依し。發菩提心の行李を習學するなり。たとひいま
た眞實の菩提心おこらずといふとも。さきに菩提心をおこせりし
佛祖の法をならふへし。これ發菩提心なり。赤心片片なり。古佛心な
り。平常心なり。三界一心なり。これらの心を放下して學道するあり。
拈擧して學道するあり。このとき。思量して學道す。不思議して學道
す。あるひは金襴衣を正傳し。金襴衣を稟受す。あるひは汝得吾髓あ

り。三拜依位而立あり。碓米傳衣する以心學心あり。剃髮染衣すなは
ち回心なり。明心なり。踰城し入山する。出一心入一心なり。山の所入
なる思量箇不思議底なり。世の所捨なる非思量なり。これを眼睛に
闢しきたること二三斛。これを業識に弄しきたること千萬端なり。
かくのことく學道するに。有功に賞おのつからきたり。有賞に功い
またいたらされとも。ひそかに佛祖の鼻孔をかりて出氣せしめ。驢
馬の脚踏を拈して印證せしむるすなはち萬古の榜樣なり。しはら
く山河大地。日月星辰これ心なり。この正當恁麼時。いかなる保任か
現前する。山河大地といふは。山河はたとへは山水なり。大地はこの
ところのみにあらず。山もおほかるへし。大須彌小須彌あり。横に處
せるあり。豎に處せるあり。三千界あり。無量國あり。色にかかるあり。
空にかかるあり。河もさらにおほかるへし。天河あり。地河あり。四大
河あり。無熱池あり。北俱盧洲には四阿耨達池あり。海あり。池あり。地
はかならずしも土にあらず。土かならずしも地にあらず。土地もあ

るへし。心地もあるへし。實地もあるへし。萬般なりといふとも地な
 かるへからず。空を地とせる世界もあるへきなり。日月星辰は。人天
 の所見不同あるへし。諸類の所見おなしからず。恁麼なるかゆゑに。
 一心の所見。これ一齊なるなり。これらすてに心なり。内なりとやせ
 ん外なりとやせん。來なりとやせん去なりとやせん。生時は一點を
 増するか。増せざるか。死には一塵をさるか。さらさるか。この生死。お
 よひ生死の見。いつれのところにかおかんとする。向來はたたこれ
 心の一念二念なり。一念二念は。一山河大地なり。二山河大地なり。山
 河大地等。これ有無にあらされは。大小にあらす。得不得にあらす。識
 不識にあらす。通不通にあらす。悟不悟に變せず。かくのことくの心。
 みつから學道することを慣習するを。心學道といふと決定信受す
 へし。この信受。それ大小有無にあらす。いまの知家非家捨家出家の
 學道。それ大小の量にあらす。遠近の量にあらす。鼻祖鼻末にあまる。
 向上向下にあまる。展事あり七尺八尺なり。投機あり爲自爲佗なり。

る
 壁
 に
 清
 作
 本

恁麼なるすなはち學道なり。學道は恁麼なるかゆゑに。牆壁瓦礫こ
 れ心なり。さらに三界唯心にあらす。法界唯心にあらす。牆壁瓦礫な
 り。感通年前につくり。感通年後にやふる。挖泥滯水なり。無繩自縛な
 り。玉をひくちからあり。水に在る能あり。とくる日あり。くたくる時
 あり。極微にきはまるときあり。露柱と同參せず。燈籠と交肩せず。か
 くのことくなるゆゑに赤脚走して學道するなり。たれか著眼看せ
 ん。翻巾斗して學道するなり。おのおの隨佗去あり。このとき。壁落こ
 れ十方を學せしむ。無門これ四面を學せしむ。發菩提心は。あるひは
 生死にしてこれをうるることあり。あるひは涅槃にしてこれをうる
 ことあり。あるひは生死涅槃のほかにしてこれをうることあり。と
 ころをまつにあらされとも發心のところにさへられざるあり。境
 發にあらす智發にあらす。菩提心發なり。發菩提心なり。發菩提心は。
 有にあらす無にあらす。善にあらす惡にあらす。無記にあらす。報地
 によりて緣起するにあらす。天有情はさためてうへからざるにあ

らす。たたまさに時節とともに發菩提心するなり。依にかかはれさるかゆゑに。發菩提心の正當恁麼時には。法界ことごとく發菩提心なり。依を轉するに相似なりといへとも。依にしらるるにあらず。共出一隻手なり。自出一隻手なり。異類中行なり。地獄。餓鬼。畜生。修羅等のなかにしても發菩提心するなり。赤心片片といふは。片片なるは。な赤心なり。一片兩片にあらず。片片なるなり。荷葉團團似鏡。菱角尖尖似錐。かかみににたりといふとも。片片なり。錐ににたりといふとも。片片なり。古佛心といふは。むかし僧ありて大證國師にとふ。いかにあらんかこれ古佛心。ときに國師いはく。牆壁瓦礫。しかあれはしるへし古佛心は。牆壁瓦礫にあらず。牆壁瓦礫を古佛心といふにあらず。古佛心。それかくのことく學するなり。平常心といふは。此界佗界といはず。平常心なり。昔日はこのところよりさり。今日はこのところよりきたる。さるときは漫天さり。きたるときは盡地きたる。これ平常心なり。平常心この屋裡に開閉す。千門萬戸。一時開閉

なるゆゑに平常なり。いまこの蓋天蓋地は。おほえさることはこのとし。曠地の一聲のことし。語等なり。心等なり。法等なり。壽行生滅の刹那に生滅するあれとも。最後身よりさきはかつてしらす。しらすれとも。發心すればかならず菩提の道にすすむなり。すてにこのところあり。さらにあやしむへきにあらず。すてにあやしむことあり。すなはち平常なり。身學道といふは。身にて學道するなり。赤肉團の學道なり。身は學道よりきたり。學道よりきたれるは。ともに身なり。盡十方界。是箇眞實人體なり。生死去來。眞實人體なり。この身體をめぐらして。十惡をはなれ八戒をたもち。三寔に歸依して。捨家出家する。眞實の學道なり。このゆゑに眞實人體といふ。後學かならず自然見の外道に同することなかれ。百丈大智禪師のいはく。若執本清淨本解脫。自是佛。自是禪道解者。卽屬自然外道。これら閑家の破具にあらず。學道の積功累徳なり。躑躅して玲瓏八面なり。脱落して如藤倚樹なり。或現此身得度而爲說法なり。或現佗身得度而爲說法なり。或

脇一
に作

福下本
等ゆな
に無し
六大一
る一作

不現此身得度而爲說法なり。或不現他身得度而爲說法なり。乃至不爲說法なり。しかあるに棄身するところに揚聲止響することあり。捨命するところに斷腸得髓することあり。たとひ威音王よりさきに發足學道すれともなほこれみつからか兒孫として増長するなり。盡十方世界といふは十方而ともに盡界なり。東西南北四維上下を十方といふかの表裏縱横の究盡なる時節を思量すへし。思量するといふは人體はたとひ自他に罣礙せらるるといふとも盡十方なりと諦觀し決定するなり。これ未曾聞をきくなり。方等なるゆゑに。界等なるゆゑに。人體は四大五蘊なり。大塵ともに凡夫の究盡するところにあらず。聖者の參究するところなり。また一塵に十方を諦觀すへし。十方は一塵に囊括するにあらず。あるひは一塵に僧堂佛殿を建立し。あるひは僧堂佛殿に盡界を建立せり。これより建立せり。建立これよりなれり。恁麼の道理すなはち盡十方界眞實人體なり。自然天然の邪見をならふへからず。界量にあらず。されは廣狹にあ

らず。盡十方界は八萬四千の說法蘊なり。八萬四千の三昧なり。八萬四千の陀羅尼なり。八萬四千の說法蘊。これ轉法輪なるかゆゑに。法輪の轉處は。眞界なり。眞時なり。方域なきにあらず。眞實人體なり。いまのなんちいまのわれ。盡十方界眞實人體なる人なり。これらを蹉過することなく學道するなり。たとひ三大阿僧祇劫。十三大阿僧祇劫。無量阿僧祇劫までも捨身受身してもてゆく。かならず學道の時節なる進歩退歩學道なり。禮拜問訊するすなはち動止威儀なり。枯木を畫圖し。死灰を磨埽す。しばらくの間斷あらず。曆日は短促なり。といへとも。學道は幽遠なり。捨家出家せる風流。たとひ蕭然なりとも。樵夫に混同することなかれ。活計たとひ競頭すとも。佃戸に一齊なるにあらず。迷悟善惡の論に比することなかれ。邪正眞僞の際にとむることなかれ。生死去來眞實人體といふは。いはゆる生死は凡夫の流轉なりといへとも。大聖の所脱なり。超凡越聖せん。これを眞實體とするのみにあらず。これに二種七種のしなあれとも。究盡す

福本子
字無し

るに。面而みな生死なるゆゑに恐怖すへきにあらず。ゆゑいかんとなれば。いまた生をすてされともいましてに死をみる。いまた死をすてされともいましてに生をみる。生は死を罣礙するにあらず。死は生を罣礙するにあらず。生死ともに凡夫のしるところにあらず。生は栢樹子のことし。死は鐵漢のことし。栢樹はたとひ栢樹に礙せらるとも。生はいまた死に礙せられさるかゆゑに學道なり。生は一枚にあらず。死は兩匹にあらず。死の生に相對するなし。生の死に相待するなし。圓悟禪師曰。生也全機現。死也全機現。遍塞太虛空。赤心常片片。この道著。しつかに功夫點檢すへし。圓悟禪師かつて恁麼いふといへとも。なほいまた生死の全機にあまれることをしらす。去來を參學するに。去に生死あり。來に生死あり。生に去來あり。死に去來あり。去來は盡十方界を兩翼三翼として。飛去飛來し。盡十方界を三足五足として。進歩退歩するなり。生死を頭尾として。盡十方界眞實人體は。よく翻身回腦するなり。翻身回腦するに。如一錢大なり。似微

塵裡なり。平坦坦地。それ壁立千仞なり。壁立千仞處。それ平坦坦地なり。このゆゑに南洲北洲の面目あり。これを檢して學道す。非想非非想の骨髓あり。これを抗して學道するのみなり。

正法眼藏身心學道

爾時仁治三年壬寅重陽日在于密林寺示衆

正法眼藏夢中說夢

諸佛諸祖出興の道。それ朕兆已前なるゆゑに。舊業の所論にあらず。これによりて佛祖邊佛向上等の功德あり。時節にかかはれざるかゆゑに。壽者命者なほ長遠にあらず。頓息にあらず。はるかに凡界の測度にあらざるへし。法輪轉また朕兆已前の規矩なり。このゆゑに大功不賞千古榜様なり。これを夢中說夢す。證中見證なるかゆゑに。夢中說夢なり。この夢中說夢處。これ佛祖國なり。佛祖會なり。佛國佛會。祖道祖席は。證上而證夢中說夢なり。この道取說取にあひなから。佛會にあらずとすへからず。これ佛轉法輪なり。この法輪十方八面なるかゆゑに。大海須彌國土諸法現成せり。これすなはち諸夢已前の夢中說夢なり。徧界の彌露は夢なり。この夢すなはち明明なる百艸なり。擬著せんとする正當なり。紛紜なる正當なり。このとき夢艸中艸說艸等なり。これを參學するに根莖枝葉華果光色ともに大夢なり。夢然なりとあやまるへからず。しかあれは佛道をならはさら

息福に速に本作

中艸清に本作夢

んと擬する人は。この夢中說夢にあひなから。いたつらにあるまじき夢艸のあるにもあらぬをあらしむるをいふならしとおもひ。まといひにまとひをかさぬるかことくにあらんとおもへり。しかにはあらず。たとひ迷中又迷といふとも。まとひのうへのまとひと道取せられゆく。道取の通霄の路。まさに功夫參學すへし。夢中說夢は諸佛なり。諸佛は風雨水火なり。この名號を受持し。かの名號を受持す。夢中說夢は古佛なり。乘此審乘。直至道場なり。直至道場は。乘此審乘中なり。夢中說夢直把定放行逞風流なり。正當恁麼の法輪あるひは大法輪界を轉すること。無量無邊なり。あるひは一微塵にも轉す。塵中に消息不休なり。この道理。いつれの恁麼事を轉法するにも。怨家笑點頭なり。いつれの處所も。恁麼事を轉法するゆゑに。轉風流なり。このゆゑに。盡地みな蕃地の無端なる法輪なり。徧界みな不味の因果なり。諸佛の無上なり。しるへし諸佛化道。およひ說法蘊。ともに無端に建化し。無端に住位せり。去來の端をもとむることなかれ。盡從這

裏去なり。盡從這裏來なり。このゆゑに葛藤をうゑて葛藤をまつふ。無上菩提の性相なり。菩提の無端なるかことく衆生無端なり。無上棒。これ見成の夢中説夢なり。しかあればすなはち無根樹不陰陽地。喚不響谷すなはち見成の夢中説夢なり。これ人天の境界にあらず。凡夫の測度にあらず。夢の菩提なるたれか疑著せん。疑著の所管にあらず。かゆゑに。この無上菩提。これ無上菩提なるかゆゑに。夢これを夢といふ。中夢あり。夢説あり。説夢あり。夢中あるなり。夢中にあらず。説夢なし。説夢にあらず。説夢は夢中なし。説夢にあらず。説夢は諸佛なし。夢中にあらず。説夢は諸佛出世し。轉妙法輪することなし。その法輪は。唯佛與佛なり。夢中説夢なり。たたまさに夢中説夢に。無上菩提衆の諸佛諸祖あるのみなり。さらに法身上事すなはち夢中説夢なり。ここに唯佛與佛の奉觀あり。頭目髓腦身肉手足を愛惜することあり。

謂本與
佛下無
りなし

謂本頭
上やい
有んや

たはず。愛惜せられざるかゆゑに。賣金須是買金人なるを玄之玄といひ。妙之妙といひ。證之證といひ。頭上安頭ともいふなり。これすなはち佛祖の行履なり。これを參學するに頭をいふには人の頂上とおもふのみなり。さらに毗廬の頂上とおもはず。いはんや明明百艸頭とおもはんや。頭鬘をしらす。むかしより頭上安頭の一句。つたはれきたれり。愚人これをききて。剩法をいましむる言語とおもふ。あるへからすといはんとして。いかてか頭上安頭することあらんと。いふをよのつねのならひとせり。まことにそれあやまらざるか。説と現成する。凡聖ともにもちあるに相違あらず。このゆゑに凡聖ともに夢中説夢なるきのふにても生すへし。今日にても長すへし。しるへしきのふの夢中説夢は。夢中説夢を夢中説夢と認しきたる。如今の夢中説夢は。夢中説夢を夢中説夢と參する。すなはちこれ值佛の慶快なり。かなしむへし。佛祖明明百艸の夢あきらかなること。百千の日月よりもあきらかなりといへとも。生盲のみさることあは

遠清本
に作

れむへし。いはゆる頭上安頭といふその頭はすなはち百艸頭なり。千種頭なり萬般頭なり。通身頭なり。全界不曾藏頭なり。盡十方界頭なり。一句合頭なり。百尺竿頭なり。安も上も頭頭なると參すへし。究すへし。しかあればすなはち一切諸佛及諸佛阿耨多羅三藐三菩提。皆從此經出も。頭上安頭しきたれる夢中說夢なり。此經すなはち夢中說夢するに。阿耨菩提の諸佛を出興せしむ。菩提の諸佛。さらに此經をとく。さたまれる夢中說夢なり。夢因くからされは夢果不味なり。たたまさに一椎千當萬當なり。千椎萬椎は。一當半當なり。かくのことくなるによりて。恁麼事なる夢中說夢あり。恁麼人なる夢中說夢あり。不恁麼事なる夢中說夢あり。不恁麼人なる夢中說夢あり。としるへし。しられきたる道理顯赫なり。いはゆるひめもすの夢中設夢。すなはち夢中設夢なり。このゆゑに古佛いはく。我今爲汝夢中說夢。三世諸佛也。夢中說夢。六代祖師也。夢中說夢。この道あきらめ學すへし。いはゆる拈華瞬目。すなはち夢中說夢なり。禮拜得隨。すなは

ち夢中說夢なり。おほよそ道得一句。不會不識。夢中說夢なり。千手千眼用許多作麼なるかゆゑに見色見聲聞色聞聲の功德具足せり。現身なる夢中說夢あり。說夢說法蘊なる夢中說夢あり。把定放行なる夢中說夢なり。直指は說夢なり。的當は說夢なり。把定しても放行しても。平常の秤子を學すへし。學得するにかならず目銖機銅あらはれて夢中說夢しいづるなり。銖銅を論せず平にいたらされは。平の見成なし。平をうるに平をみるなり。すてに平をうるところ。物によらず。秤によらず。機によらず。空にかかれりといへとも。平をえされは。平をみすと參究すへし。みつから空にかかれるか。ことく物を接取して空に遊化せしむる夢中說夢なり。空裏に平を現身す。平は秤子の大道なり。空をかけ物をかく。たとひ空なりとも。たとひ色なりとも。平にあふ夢中說夢なり。解脱の夢中說夢にあらずといふことなし。夢これ盡大地なり。盡大地は平なり。このゆゑに回頭轉腦の無窮盡すなはち夢裏證夢する信受奉行なり。

釋迦牟尼佛言。諸佛身金色。百福相莊嚴。聞法爲人說。常有是好夢。又夢作國王。捨宮殿眷屬。及上妙五欲。行詣於道場。在菩提樹下。而處師子座。求道過七日。得諸佛之智。成無上道。已起而轉法輪。爲四衆說法。逕千萬億劫。說無漏妙法。度無量衆生。後當入涅槃。如煙盡燈滅。若後惡世中。說是第一法。是人得大利。如上諸功德。而今の佛説を參學して。諸佛の佛會を究盡すへし。これ譬諭にあらず。諸佛の妙法は。たた唯佛與佛なるゆゑに。夢覺の諸法。ともに實相なり。覺中の發心修行菩提涅槃あり。夢裏の發心修行菩提涅槃あり。夢覺おのほの實相なり。大小せず。勝劣せず。しかあるを。又夢作國王等の前後の道著を見聞する。古今おもはくは。説是第一法のちからによりて。夜夢のかくのことく。なると錯會せり。かくのことく會取するは。いまた佛説を曉了せざるなり。夢覺もとより如一なり。實相なり。佛法はたとひ譬諭なり。とも實相なるへし。すてに譬諭にあらず。夢作これ佛法の眞實なり。釋迦牟尼佛および一切の諸佛諸祖みな夢中に發心修行し。成等正覺

巢集に清本作
前開聲に清聲
本の處に清聲

するなり。しかあるゆゑに。而今の娑婆世界の。一化の佛道すなはち夢作なり。七日といふは。得佛智の量なり。轉法輪度衆生すてに。逕千萬億劫といふ。夢中の消息たとるへからず。諸佛身金色百福相莊嚴。聞法爲人說。常有是好夢といふ。あきらかにしりぬ。好夢は諸佛なり。と證明せらるるなり。常有の如來道あり。百年の夢のみにあらず。爲人説は現身なり。聞法は眼處聞聲なり。心處聞聲なり。舊巢處聞聲なり。空劫已前聞聲なり。諸佛身金色百福相莊嚴といふ。好夢は諸佛身なり。といふこと。直至如今更不疑なり。覺中に佛化やまさる道理あり。といへとも。佛祖現成の道理かならず。夢作夢中なり。莫謗佛法の參學すへし。莫謗法の參學するとき。而今の如來道たちまちに現成するなり。

正法眼藏夢中說夢

余時仁治三年壬寅秋九月二十一日在雍州宇治郡觀音導利興聖
審林寺示衆

正法眼藏道得

諸佛諸祖は道得なり。このゆゑに佛祖の佛祖を選ずるにはかならず道得也。未と問取するなり。この問取。ころにても問取す。身にても問取す。拄杖拂子にても問取す。露柱燈籠にても問取するなり。佛祖にあらされは問取なし。道得なし。そのところなきかゆゑに。その道得は。佗人にしたかひてうるにあらず。わがちからの能にあらず。たたまさに佛祖の究辨あれば。佛祖の道得あるなり。かの道得のなかに。むかしも修行し。證究す。いまも功夫し。辨道す。佛祖の佛祖を功夫して。佛祖の道得を辨育するとき。この道得。おのつから三年八年三十年四十年の功夫となりて。盡力道得するなり。聖哲云三十年二十年は道得のなれる年月なり。この年月ちからをあこはせて道得せしむるなり。このときは。そのなん十年のあひたも。道得の間隙なかりけるなり。しかあれは。すなはち證究のときの見得。それまことなるへし。かのときの見得をまこととするかゆゑに。いまの道得なることは。不疑なり。ゆゑに。いまの道得。かのときの見得をそなへたるなり。かのときの見得。いまの道得をそなへたり。このゆゑに。いま道得あり。いま見得あり。いまの道得と。かのときの見得と。一條なり。萬里なり。いまの功夫。すなはち道得と見得とに。功夫せられゆくなり。この功夫の把定の月ふかく。年おほく。かさなりて。さらに從來の年月の功夫を。脱落するなり。脱落せんとするとき。皮肉骨髓おなしく。脱落を辨育す。國土山河。ともに脱落を辨育するなり。このとき。脱落を究竟の審所として。いたらんと擬し。ゆくところに。この擬到は。すなはち現出にてあるゆゑに。正當脱落のとき。またさるに現成する道得あり。心のちからにあらず。身のちからにあらず。といへとも。おのつから道得あり。すてに道得せらるるに。めつらしくあやしく。おほえさるなり。しかあれとも。この道得を道得するとき。不道得を不道するなり。道得に道得すると認得せるも。いまた不道得底を不道得底と證究せざるは。なほ佛祖の面目にあらず。佛祖の骨髓にあらず。しかあれは。三拜依位而立の道得底。いかにしてか。皮肉骨

へたるなり。かのときの見得。いまの道得をそなへたり。このゆゑに。いま道得あり。いま見得あり。いまの道得と。かのときの見得と。一條なり。萬里なり。いまの功夫。すなはち道得と見得とに。功夫せられゆくなり。この功夫の把定の月ふかく。年おほく。かさなりて。さらに從來の年月の功夫を。脱落するなり。脱落せんとするとき。皮肉骨髓おなしく。脱落を辨育す。國土山河。ともに脱落を辨育するなり。このとき。脱落を究竟の審所として。いたらんと擬し。ゆくところに。この擬到は。すなはち現出にてあるゆゑに。正當脱落のとき。またさるに現成する道得あり。心のちからにあらず。身のちからにあらず。といへとも。おのつから道得あり。すてに道得せらるるに。めつらしくあやしく。おほえさるなり。しかあれとも。この道得を道得するとき。不道得を不道するなり。道得に道得すると認得せるも。いまた不道得底を不道得底と證究せざるは。なほ佛祖の面目にあらず。佛祖の骨髓にあらず。しかあれは。三拜依位而立の道得底。いかにしてか。皮肉骨

髓のやからの道得底とひとしからん。皮肉骨髓のやからの道得底。さらに三拜依位而立の道得に接するにあらず。そなはれるにあらず。いまわれと佗と異類中行と相見するは。いまかれと佗と異類中行と相見するなり。われに道得底あり。不道得底あり。かれに道得底あり。不道得底あり。道底に自佗あり。不道底に自佗あり。趙州眞際大師示衆云。你若一生不離叢林。兀坐不道。十年五載。無人喚作你啞漢。已後諸佛也不及你哉。しかあれは十年五載の在叢林。しはしは霜華を經歷するに。一生不離叢林の功夫辨道をおもふに。坐断せし兀坐は。いくはくの道得なり。不離叢林の經行坐臥。そこはくの無人喚作你啞漢なるへし。一生は所從來をしらすといへとも。不離叢林ならしむれば。不離叢林なり。一生と叢林のいかなる通霄路かある。たた兀坐を辨旨すへし。不道をいとふことなかれ。不道は道得の頭正尾正なり。兀坐は一生二生なり。一時二時にあらず。兀坐して不道なる十年五載あれば。諸佛も你をないがしるにせんことあるとの一作本

るへからず。まことにこの兀坐不道は。佛眼也。覩不見なり。佛力也。牽不及なり。諸佛也。不奈你何なるかゆ系に。趙州のいふところは。兀坐不道の道取は。諸佛もこれを啞漢といふにおよはず。不啞漢といふにおよはず。しかあれは一生不離叢林は。一生不離道得なり。兀坐不道十年五載は。道得十年五載なり。一生不離不道得なり。道不得十年五載なり。坐断百千諸佛なり。百千諸佛坐断你なり。しかあれはすなはち佛祖の道得底は。一生不離叢林なり。たとひ啞漢なりとも。道得底あるへし。啞漢は道得なかるへしと學することなかれ。道得あるものかならずしも。啞漢にあらずるにあらず。啞漢また道得あるなり。啞聲きこゆへし。啞語きくへし。啞にあらずはいかてか啞と相見せん。いかてか啞と相談せん。すてにこれ啞漢なり。作麼生相見。作麼生相談。かくのことく參學して。啞漢を辨究すへし。雪峰の眞覺大師の會に。一僧ありて山のほとりにゆきて。艸をむすひて菴を卓す。としつもありぬれともかみをそらさりけり。菴裏の活

計たれかしらん。山中の消息悄然なり。みつから一柄の木杓をつくりて。谿のほとりにゆきて水をくみてのむ。まことにこれ飲谿のたくひなるへし。かくて日往月來するほとに家風ひそかに漏泄せりけるによりてあるとき僧きたりて菴主にとふ。いかにあらんかこれ祖師西來意。菴主。いはく谿淡杓柄長といふ。僧。おくことあらず。禮拜せず。請益せず。山にのほりて雪峰に舉似す。雪峰。ちなみに舉をききていはく。也甚奇怪。雖然如是。老僧自去。勘過始得。雪峰のいふころは。よさはすなはちあやしきまてによし。しかあれとも老僧みつからゆきてかんかへみるへしとなり。かくてあるに日。雪峰たちまちに侍者に剃刀をもたせて卒しゆく。直に菴にいたりぬ。わづかに菴主をみるにすなはちとふ。道得ならはなんちか頭をそらし。この問。こころうへし。道得不剃汝頭とは。不剃頭は道得なりときこゆ。いかん。この道得もし道得ならんには。畢竟して不剃ならん。この道得きくちからありてきくへし。きくへきちからあるもののため

字頭は禪
無の不本
し五剃と

作る清ら
るる本れ
にらて

に開演すへし。ときに菴主かしらをあらひて雪峰のまへにきたれり。これも道得にてきたれるか。不道得にてきたれるか。雪峰すなはち菴主のかみをそる。この一段の因縁まことに優曇の一現のことし。あひかたきのみにあらず。ききかたかるへし。七聖十聖の境界にあらず。三賢七賢の覩見にあらず。經師論師のやから神通變化のやから。いかにもはかるへからさるなり。佛出世にあふといふは。かくのことくの因縁をきくをいふなり。しはらく雪峰のいふ道得不剃汝頭。いかにあるへきそ。未道得の人これをききて。ちからあらんは驚疑すへし。ちからあらざらんは茫然ならん。佛と問著せず。道といはず。三昧と問著せず。陀羅尼といはず。かくのことく問著する。問に相似なりといへとも道に相似なり。審細に參學すへきなり。しかあるに菴主まことあるによりて。道得に助發せられて。茫然ならさるなり。家風かくれず。洗頭してきたる。これ佛自智慧。不得其邊の法度なり。現身なるへし。說法なるへし。度生なるへし。洗頭來なるへし。と

きに雪峰もしその人にあらすは剃刀を放下して呵呵大笑せん。しかあれとも雪峰そのちからありその人なるによりてすなはち菴主のかみをそるまことにこれ雪峰と菴主と唯佛與佛にあらすよりはかくのこことくならず。一佛二佛にあらすよりはかくのこことくならず。龍と龍とにあらすよりはかくのこことくならず。驪珠は驪龍のをしむこころ懈倦なしといへとも。おのつから解收の人の手にいるなり。しるへし雪峰は菴主を勘過す。菴主は雪峰をみる。道得不得かみをそられかみをそる。しかあれはすなはち道得の良友は期せざるにとふらふみちあり。道不得のとも。またされとも知己のところありき。知己の參學あれば道得の現成あるなり。

正法眼藏道得

仁治三年壬寅十月五日書于觀音導利興聖靈林寺示衆

正法眼藏畫餅

諸佛これ證なるゆゑに諸物これ證なり。しかあれとも一性にあらす一心にあらす。一性にあらす一心にあらされとも。證のとき證證さまたけす現成するなり。現成のとき現現あひ接することなく現成すへし。これ祖宗の端的なり。一異の測度を擧して參學の力量とすることなかれ。このゆゑにいはいく一法纔通萬法通。いふところの一法通は一法の從來せる面目を奪却するにあらす。一法を相對せしむるにあらす。一法を無對ならしむるにあらす。無對ならしむるはこれ相礙なり。通をして通の礙なからしむるに。一通これ萬通なり。一通は一法なり。一法通これ萬法通なり。

古佛言畫餅不充飢。この道を參學する雲衲復袂。この十方よりきたれる菩薩聲聞の名位をひとつにせず。かの十方よりきたれる神頭鬼面の皮肉あつくうすし。これ古佛今佛の學道なりといへとも。樹下艸菴の活計なり。このゆゑに家業を正傳するにあるひはいは

く。經論の學業は眞智を熏修せしめざるゆゑにしかのこことくいふといひ。あるひは三乘一乘の教學さらに三菩提のみちにあらずといはんとして。恁麼いふなりと見解せり。おほよそ假立なる法は眞に用不著なるをいはんとして。恁麼の道取ありと見解する。おほきにあやまるなり。祖宗の功業を正傳せず。佛祖の道取にくらし。この一言をあきらめさらん。たれか餘佛の道取を參究せりと聽許せん。畫餅不能充飢と道取するは。たとへは諸惡莫作。衆善奉行と道取るかことし。是什麼物恁麼來と道取するかことし。吾常於是切といふかことし。しはらくかくのこことく參學すへし。畫餅といふ道取かつて見來せるともからすくなし。知及せるものまたくあらず。なにしてか恁麼しる。從來の一枚二枚の臭皮袋を勘過するに。疑著におよはず。親觀におよはず。たた鄰談に側耳せずして。不管なるかことし。畫餅といふは。しるへし。父母所生の面目あり。父母未生の面目あり。米麪をもちゐて作法せしむる。正當恁麼。かならずしも生不生

下本
無し

にあらされとも。現成道成の時節なり。去來の見聞に拘牽せらるる。と參學すへからず。餅を畫する丹腹は。山水を畫する丹腹とひとしかるへし。いはゆる山水を畫するには。青丹をもちゐる。畫餅を畫するには。米麪をもちゐる。恁麼なるゆゑに。その所用おなしく。功夫ひとしきなり。しかあれは。すなはちいま道著する畫餅といふは。一切の糊餅。菜餅。乳餅。燒餅。糍餅等。みなこれ畫圖より現成するなり。しるへし。畫等餅等法等なり。このゆゑに。いま現成するところの諸餅。ともに畫餅なり。このほかに畫餅をもとむるには。つひに。いまた相逢せず。未拈出なり。一時現なりといへとも。一時不現なり。しかあれとも。老少の相にあらず。去來の跡にあらざるなり。しかある這頭に。畫餅國土。あらはれ成立するなり。不充飢といふは。飢は十二時使にあらされとも。畫餅に相見する便宜あらず。畫餅を喫著するにつひに。飢をやむる功なし。飢に相待せらるる餅なし。餅に相待せらるる餅。あらざるかゆゑに。活計つたはれず。家風つたはれず。飢も一條拄杖

福本有り
上
福本有り
研究に福本作

なり。横擔堅擔千變萬化なり。餅も一身心現なり。青黄赤白長短方圓なり。いま山水を畫するには青綠丹靨をもちゐる。奇巖怪石をもちゐる。七竈四竈をもちゐる。餅を畫する經營もまたかくのことし。人を畫するには四大五蘊をもちゐる。佛を畫するには泥龕土塊をもちゐるのみにあらず。三十二相をもちゐる。一莖艸をもちゐる。三祇百劫の熏修をももちゐる。かくのことくして一軸の畫佛を圖しきたれるゆゑに。一切諸佛はみな畫佛なり。一切畫佛はみな諸佛なり。畫佛と畫餅と檢點すへし。いつれか石烏龜いつれか鐵拄杖なる。いつれか色法いつれか心法なると。審細に功夫參究すへきなり。恁麼功夫するとき。生死去來はことごとく畫圖なり。無上菩提すなはち畫圖なり。おほよそ法界虚空いつれも畫圖にあらざるなし。

古佛言道成白雪千厠去。畫得青山數軸來。これ大悟話なり。辨道功夫の現成せし道底なり。しかあれば得道の正當恁麼時は。青山白雪を數軸となつく。畫圖しきたれるなり。一動一靜しかしなから畫圖

にあらざるなし。われらかいまの功夫たた畫よりえたるなり。十號三明。これ一軸の畫なり。根力覺道。これ一軸の畫なり。もし畫は實にあらずといはは。萬法みな實にあらず。萬法みな實にあらずは佛法も實にあらず。佛法もし實なるには畫餅すなはち實なるへし。

雲門匡眞大師。ちなみに僧とふいかにあらんか。これ超佛越祖之談。師いはく。糊餅。この道取しつかに功夫すへし。糊餅すてに現成するには。超佛越祖の談を説著する。祖師あり。聞著せざる。鐵漢あり。聽得する。學人あるへし。現成する。道著あり。いま糊餅の展事投機。かならずこれ畫餅の二枚三枚なり。超佛越祖の談あり。入佛入魔の分あり。

先師道脩竹芭蕉入畫圖。この道取は長短を超越せるもの。ともに畫圖の參學ある。道取なり。脩竹は長竹なり。陰陽の運なりといへとも。陰陽をして運ならしむるに。脩竹の年月あり。その年月陰陽はかることうへからざるなり。大聖は陰陽を觀見すといへとも。大聖

陰陽を測度することあたはず。陰陽ともに法等なり。測度等なり。道等なるかゆゑに。いま外道二乗等の心目にかかはる陰陽にはあらず。これは脩竹の陰陽なり。脩竹の歩層なり。脩竹の世界なり。脩竹の眷屬として。十方諸佛あり。しるへし。天地乾坤は。脩竹の根莖枝葉なり。このゆゑに。天地乾坤をして。長久ならしむ。大海須彌盡十方界をして。堅牢ならしむ。拄杖竹篋をして。一老一不老ならしむ。芭蕉は。地水火風空心意識智慧を。根莖枝葉華果光色とせるゆゑに。秋風を帶して。秋風にやふるの。こる一塵なし。淨潔といひぬへし。眼裏に筋骨なし。色裏に膠膈あらず。當處の解脱あり。なほ速疾に拘牽せられされは。須臾刹那等の論におよはず。この力量を擧して。地水火風を活計ならしめ。心意識智を大死ならしむ。かるかゆゑに。この家業に。春夏秋冬を調度として。受業しきたる。いま脩竹芭蕉の全消息。これ畫圖なり。これによりて。竹聲を聞著して。大悟せんものは。龍蛇ともに畫圖なるへし。凡聖の情量と疑著すへからず。那竿得恁麼長なり。這

本無
下か

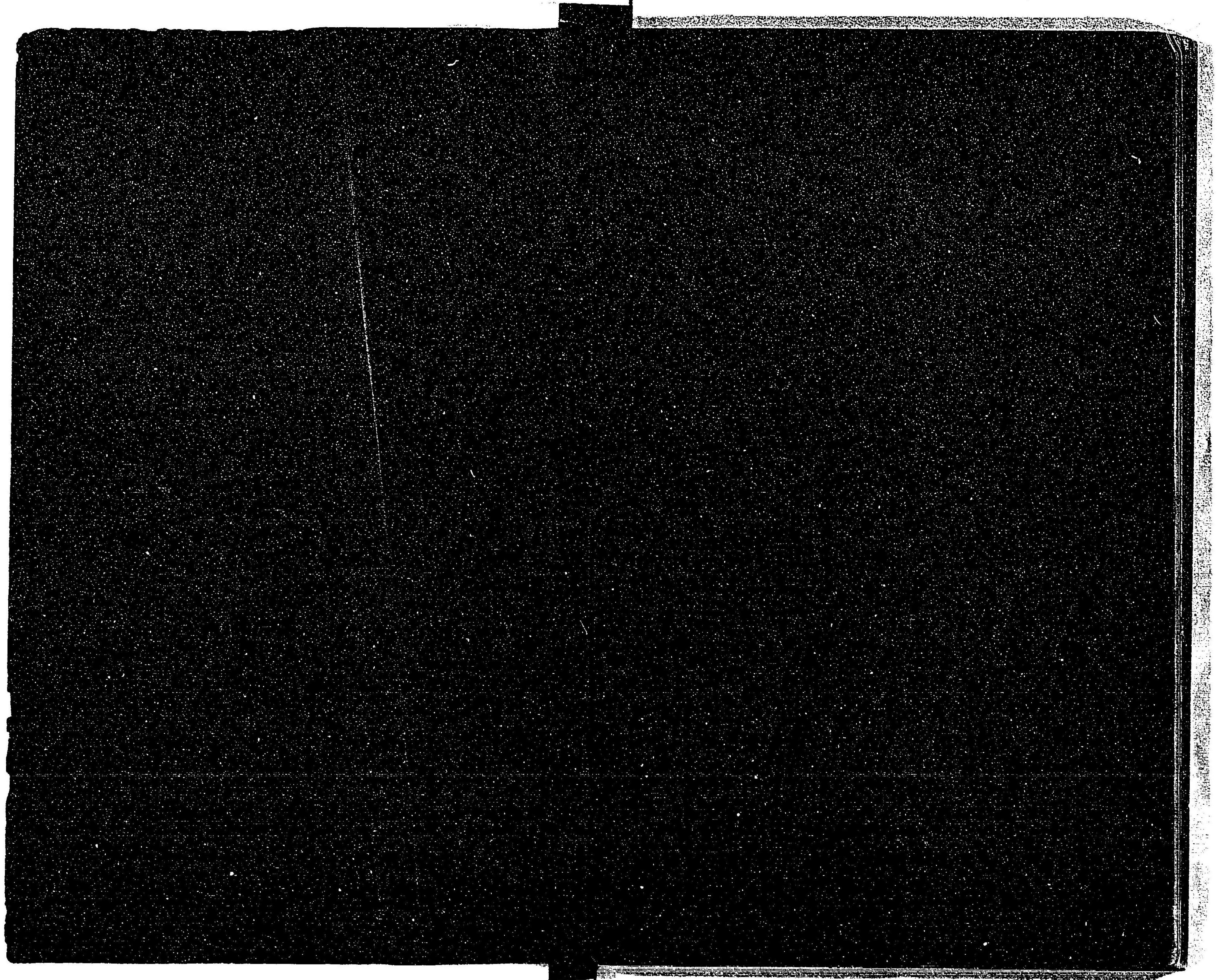
竿得恁麼短なり。這竿得恁麼長なり。那竿得恁麼短なり。これみな畫圖なるかゆゑに。長短の圖かならず。相符するなり。長畫あれば。短畫なきにあらず。この道理あきらかに參究すへし。たたまさに。盡界盡法は。畫圖なるかゆゑに。人法は。畫より現し。佛祖は。畫より成するなり。しかあれば。すなはち。畫餅にあらされは。充飢の藥なし。畫飢にあらされは。人に相逢せず。畫充にあらされは。力量あらざるなり。おほよそ。飢に充し。不飢に充し。飢を充せず。不飢を充せざる。こと。畫飢にあらされは。不得なり。不道なるなり。しはらく。這箇は。畫餅なることを參學すへし。この宗旨を參學するとき。いささか。轉物轉の。功徳を身心に。究盡するなり。この功徳。いま。現前せざるか。ときは。學道の力量。いま。現成せざるなり。この功徳を。現成せしむる。證畫現成なり。

正法眼藏畫餅

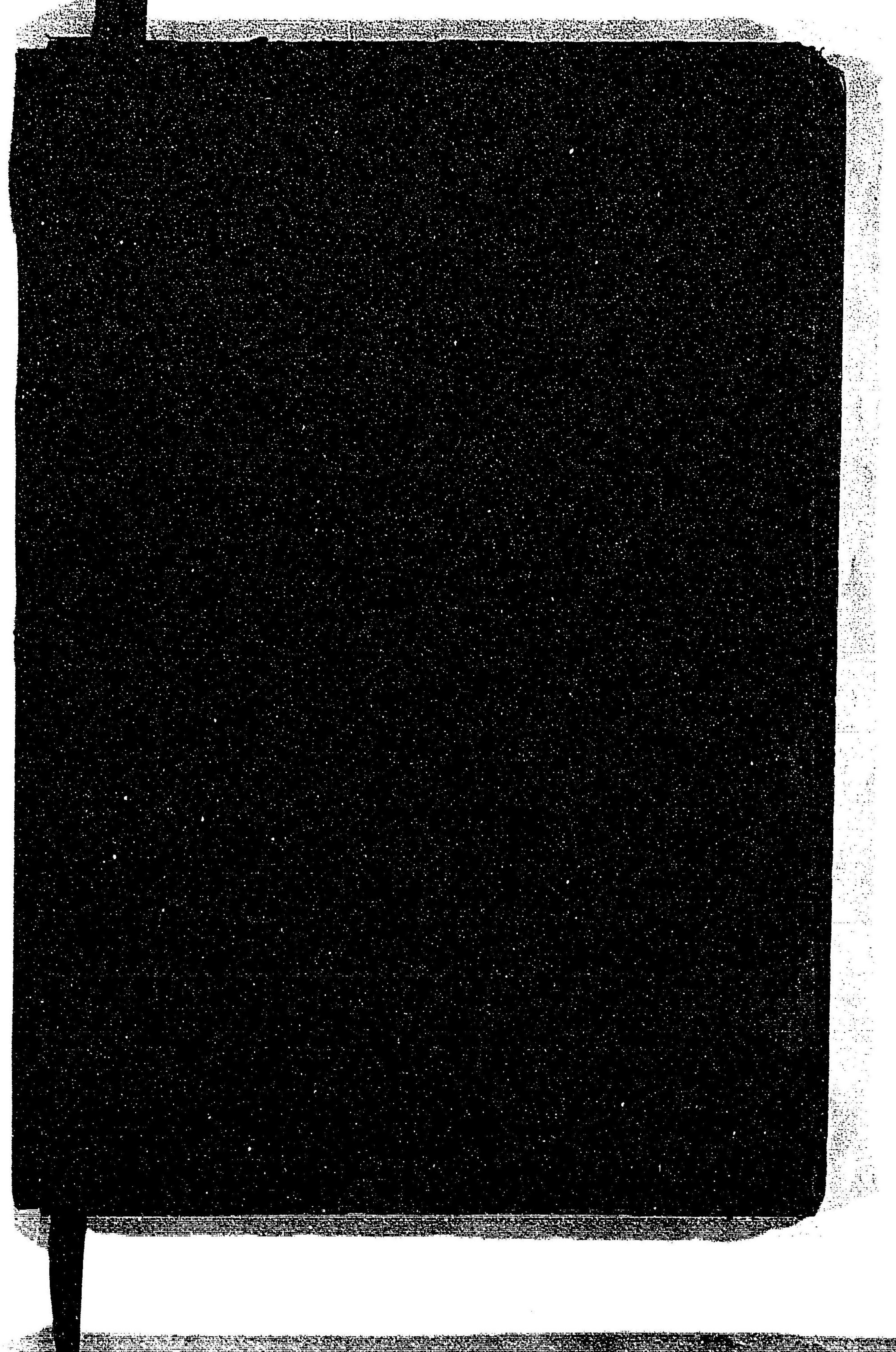
余時仁治三年壬寅十一月初五日。在于觀音導利興聖蜜林寺。示衆

承陽大師聖教全集第一卷終

324
128



124
125



324
128

019544-001-1

324-128

承陽大師聖教全集

弘津 說三/編

M42.4

ABG-0310

